

意外と悪いタイ経済

すが 須賀 つとむ 努

コラムニスト・アジアウォッチャー

ここ数年、日本企業の進出ラッシュに沸いたタイ。クーデターがあろうと、軍事政権だろうと、日本人は基本的にタイが好きであり、中国からのシフト、ASEAN 統合などの掛け声もあり、多くのビジネスマンがバンコクを闊歩してきた。だが、そのタイの景気は決して良いとは言えず、経済成長率も低迷している。また進出した日本企業の動きにも少しずつ変化が出てきているようだ。

タイ人の外食が減っている

タイ人といえば、屋台などでの外食文化で知られており、いつでも誰かが食事をしている印象がある。最近はお洒落なフードコート、レストランも沢山出来ており、3月にオープンした超高級ショッピングモール、エムクオーティエには螺旋状になったユニークな造りのレストラン街が出来たが、ランチでも平均2000円以上は出さないと食べるのは難しい。また地下のフードコートの価格設定は既存店舗の2倍近くになっているが、お客は列をなしており、一見好調に見える。

一方同じバンコクでも馴染のローカル食堂へ行



写真1 バンコクのおしゃれなレストラン

くと、どことなく様子が違う。いつも会う華人のおじいさんと交わす会話が『景気はい

い?』なのだが、以前は『まあまあだな』などと答えていたおじいさんが、先日は『明ら



写真2 お客の減ったローカルレストラン

かに悪いよ』と顔をゆがめた。確かにその限界では、半年前少なくとも昼時はお客が溢れていたが、今回は直ぐに座ることができた。

ここ数年で年平均8%以上賃金が上昇したと言われているタイだが、一般庶民にその恩恵は行き渡ったのだろうか。『以前やっていた仕事が無くなった』とこの食堂の常連客は嘆き、店に来る回数も減ったという。華人であるおじいさんはタイ人のことを『収入があれば外で食べ、無くなれば家で自炊する。目先のことしか考えない、それがタイ人さ』と切り捨てる。政府発表の消費者物価指数は今年に入って6か月連続マイナスを記録しているにも拘らず、その主因である原油価格の低下を享受できる層は一部なのかもしれない。市場で売られる野菜の値段などを見ても、バンコクの生活物資は確実に値上がりしており、庶民にとっては、懐に余裕がなくなっているのは事実のようだ。そして明らかに貧富の差は拡大しているように見える。

2~3か月アメリカに行っていたというタイ人女性は『昔はアメリカの物価は非常に高く、バンコクに帰るとホッとしたものだが、今ではじりじりとそ



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



の差が詰まってきている』と感じている。アメリカで食事をすると値段も高いが、そのボリュームがすごい。一方タイ人は少量を何回にも分けて食べる習慣があり、元々ボリュームが少ない訳だが、彼女によれば『お気に入りのフードコートに2か月ぶりに行くと、値段は同じだったが、量がかなり少なくなっていた』と悲しそうに語る。

金利も下がり、為替も弱い

タイで物価上昇が目に見えないのは実はこのように、値段でなく量で調節する手法が取られることも一因かもしれない。昨年末に値上げしたタクシー料金も初乗り料金35バーツを据え置き、途中の加算額を値上げ、如何にもタイらしいやり方となっている。以前バンコクに暮らしたことのある日本人が、空港からタクシーに乗ると、途中からメーターがどんどん上がるのに驚いて『メーターを違法改造したタクシー』だと思い込み、警察に通報しようとした、という笑い話があるほどだ。

そのタクシーの空車も以前より目立っているように感じる。料金が改訂されれば当然、一時的に乗客が減るのは仕方がないが、普通はそれも半年経てば織り込まれていた。だが今年はバンコクに行くたびに、空車が増えているように思えるのは何故だろうか。また渋滞は相変わらずで、時間帯によっては酷い状態であることに違いはないが、全体的には交通量が減っていると指摘するタイ人もいた。

金利もどんどん下がってきている。2～3年前はタイバーツの銀行定期預金は3%を越えていたが、現在はその半分にまで下がってきている。タイの銀行はなぜか定期預金キャンペーンの期間を15か月、

11か月、7か月などとしているが、先日某銀行を覗いて見ると4か月物しか表示がなかった。政府の景気刺激策による政策金利低下誘導が原因ではあるが、銀行も運用難になっているということだろう。株式市場が以前より値下がりしていることも一因かもしれない。

タイバーツの為替も弱含みで推移している。昨年のクーデターの影響もあり、海外からの投資が低調となっており、また中国、ヨーロッパなどの経済減速により輸出にブレーキがかかっていることから、タイ政府としてはバーツ安を容認して行く方向だ。

日本企業の撤退も

ここ数年進出ラッシュと言われた日本企業だが、最近は視察に訪れる企業も減っているという。いや、視察に来る場合はタイを見るのではなく、ミャンマー、カンボジアなどへの投資を検討する上での起点、という位置づけで、まずタイで情報を得て、実際のビジネス、投資は隣国で、という動きがかなり見られる。

昨年バンコクに仮事務所を設け、工場建設、資金店舗開設などを進めていた中小企業数社は、今年に入り、事務所を閉め、日本へ引き上げていったという。理由は『採算が合わない』から。今やタイで製造して日本へ輸出しても、この円安では価格が折り合わない。バンコクに今から出店しても、景気も悪いし、競争も激しすぎるという。またタイの賃金及び不動産価格などのコスト上昇を考え合わせると、インドネシアやベトナムも状況は同じ、数年後まで見ると『日本に戻った方がまだマシ』という結論になるようだ。